

2026年3月期  
決算説明資料

共英製鋼株式会社

(東証プライム：5440)

2026.4.30

- 1 決算ハイライト
- 2 2026年3月期 通期決算報告
- 3 2027年3月期 通期業績予想

1

## 決算ハイライト

2

2026年3月期 通期決算報告

3

2027年3月期 通期業績予想

## 国内の落ち込みを堅調な海外がカバーし、前期対比増益

### ■ 2026年3月期 実績

	2025年3月期	2026年3月期	増減
売上高	3,228億円	3,151億円	 ▲77億円
経常利益	157億円	162億円	 +5億円
出荷量	313万トン (国内145万トン 海外168万トン)	328万トン (国内138万トン 海外190万トン)	 +15万トン

- 国内鉄鋼事業：工期遅延・長期化で出荷量減、円安や中東情勢を背景としたスクラップ価格の上昇により売買差縮小、**前期対比減収減益**
- 海外鉄鋼事業：ベトナム・カナダは堅調、米国も下期から黒字化  
**前期対比+79億円の大幅増益**

### ■ 2027年3月期 業績予想

- 通期業績：売上高 3,600億円、経常利益 140億円
- 通期出荷量：360万トン（国内140万トン、海外220万トン）前期対比 +32万トン
- 年間配当予想 1株当たり70円（中間 30円、期末 40円）

1

決算ハイライト

2

**2026年3月期 通期決算報告**

3

2027年3月期 通期業績予想

前期対比で減収となったものの、営業利益・経常利益は増益

期間：2025年4月1日～2026年3月31日

	単位	2025年3月期	2026年3月期	前回予想	増減	
		通期	通期	通期	対前期	対予想
売上高	億円	3,228	<b>3,151</b>	3,170	▲77 ▲2.4%	▲19 ▲0.6%
営業利益		153	<b>170</b>	170	+16 +10.7%	▲0 ▲0.2%
経常利益		157	<b>162</b>	160	+5 +3.0%	+2 +1.3%
当期純利益		108 <sup>※2</sup>	<b>99</b>	105	▲9 ▲8.6%	▲6 ▲6.1%

※1 比較欄の上段は増減数量、下段は増減比率

※2 25年3期は特別利益（米国拠点の火災事故に係る保険金など）を通期で35億円計上

# セグメント別業績概要

- 国内：工期の遅延・長期化の影響による出荷量減少、円安や中東情勢を背景にスクラップ価格の上昇幅が拡大し売買差が縮小、前期対比で減収減益
- 海外：ベトナム・カナダ拠点は堅調に推移、米国拠点は下期で黒字化し、前期対比で増収増益
- 環境リサイクル：厳しい競合環境が続く中、4Qでのスポット案件の獲得するも前期対比若干減益

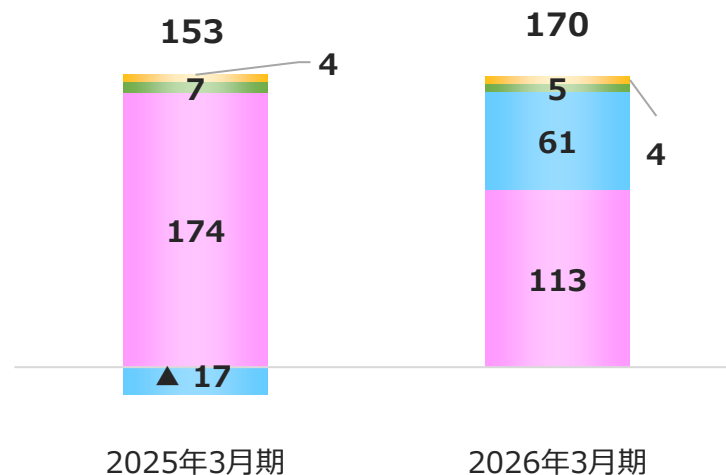
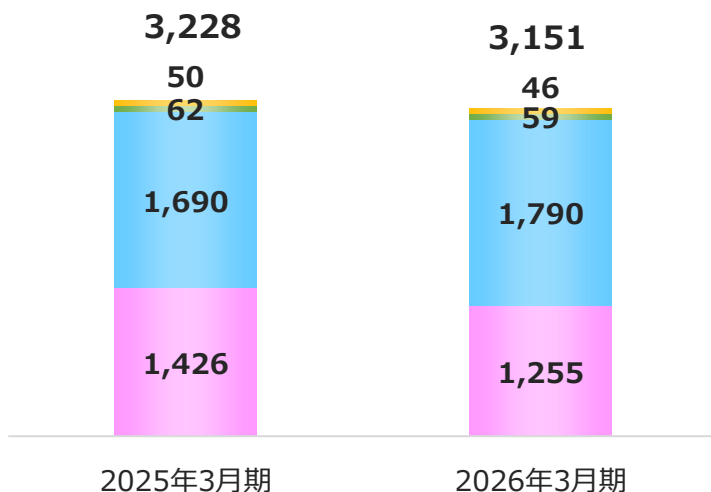
## 売上高 (億円)

## 営業利益 (億円)

	2025年3月期					2026年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
国内鉄鋼事業	382	347	357	340	1,426	327	311	315	303	1,255
海外鉄鋼事業	371	452	411	456	1,690	388	469	440	493	1,790
環境リサイクル事業	17	15	16	15	62	13	14	15	17	59
その他事業	13	13	10	13	50	13	11	10	12	46
合計	783	827	794	825	3,228	742	805	780	824	3,151

	2025年3月期					2026年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
	47	32	47	48	174	40	29	26	18	113
	▲18	2	▲10	9	▲17	6	20	18	17	61
	3	0	2	1	7	0	0	1	4	5
	1	1	1	1	4	2	1	0	1	4
	31	28	38	56	153	43	49	42	35	170

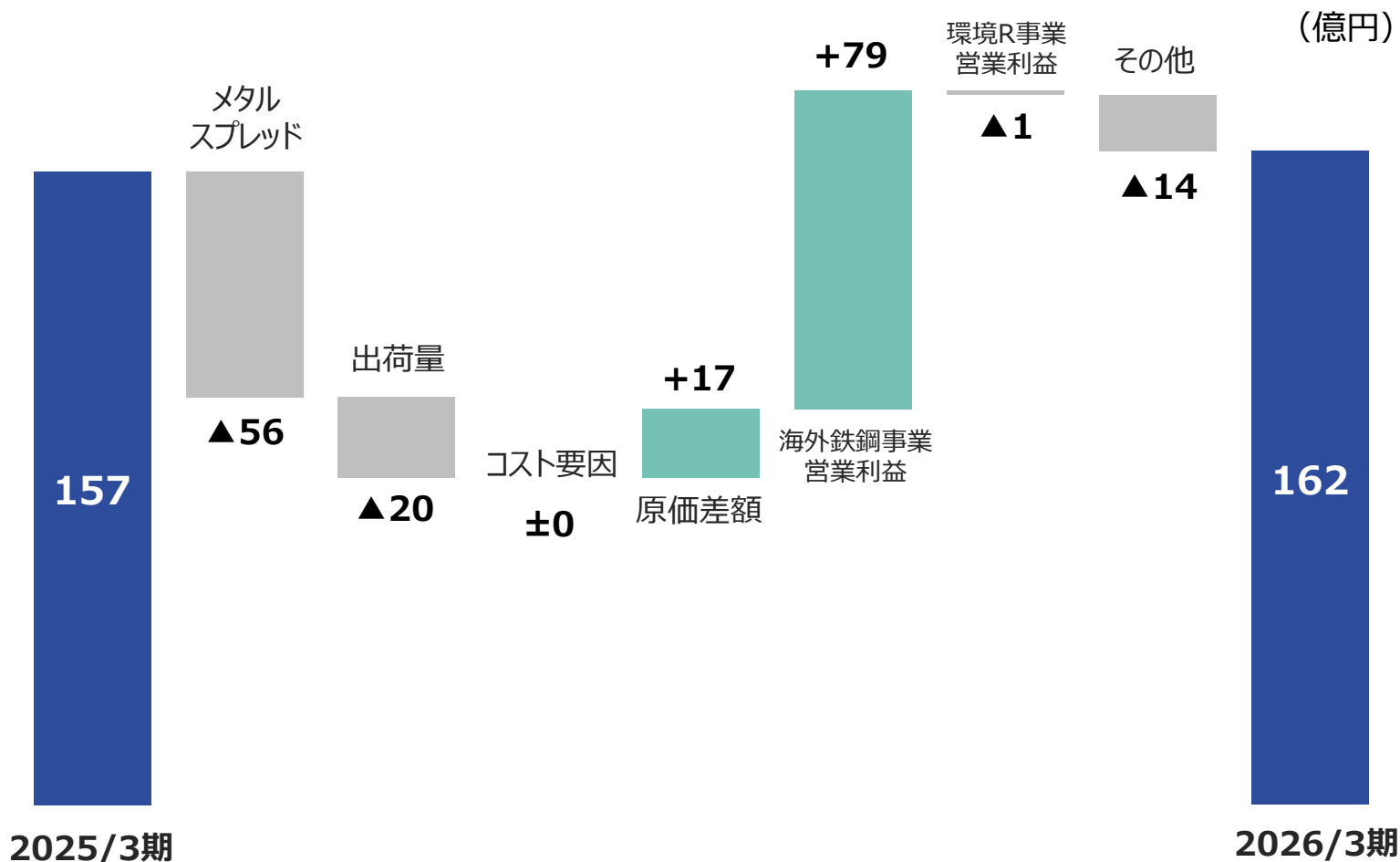
※営業利益合計との差異は、消去または全社費用分



国内鉄鋼事業 海外鉄鋼事業 環境リサイクル事業 その他の事業

# 経常利益の変動要因 (前期対比)

- 当期の経常利益が 前期対比 5億円増加した要因

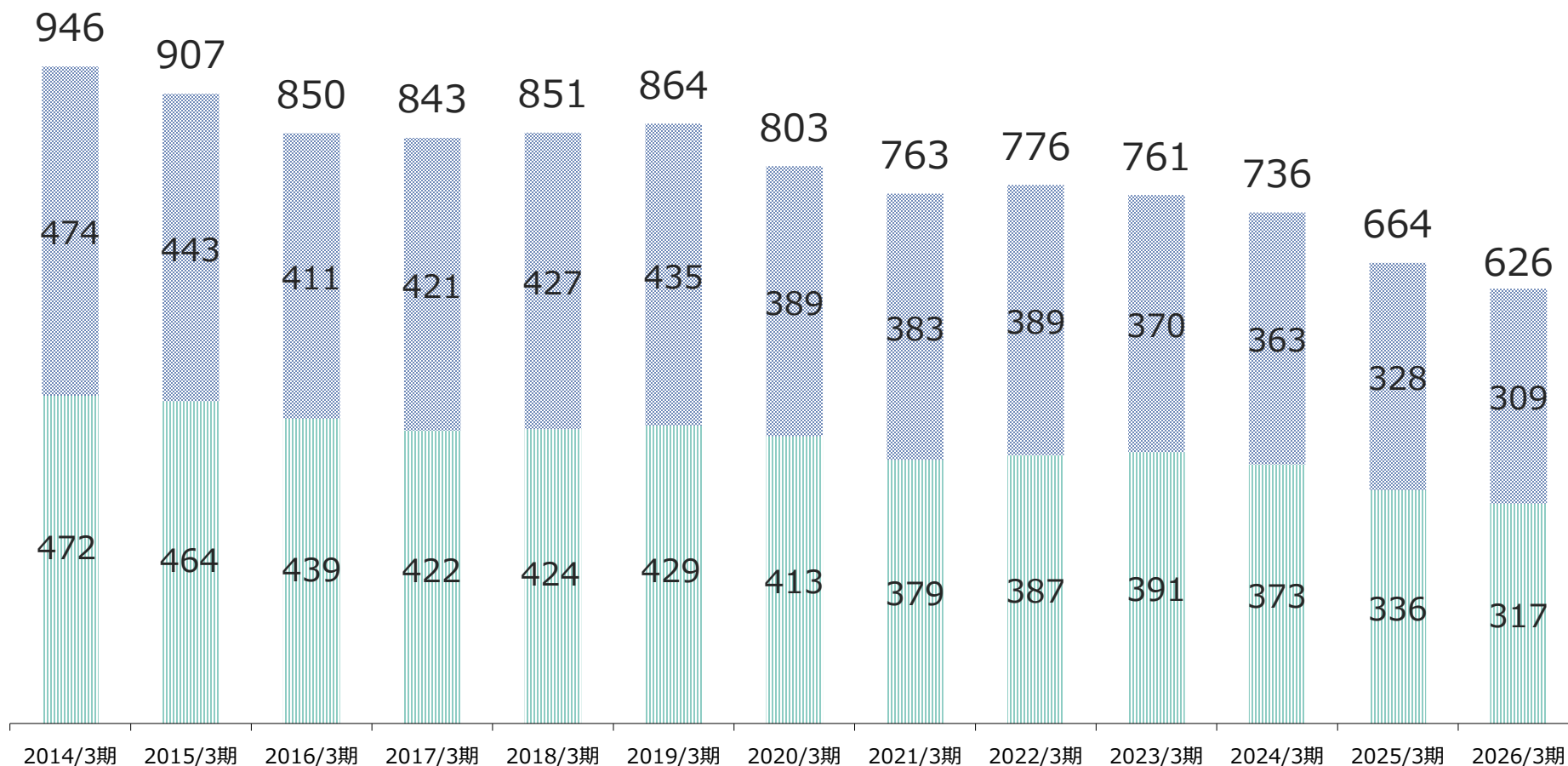


# 国内鉄鋼事業：全国小形棒鋼生産量推移

■ 2025年度の全国小形棒鋼生産量は626万トン、前期対比▲5.7%

■ 上期 ■ 下期

(万トン)



(出典) 日本鉄鋼連盟資料

- 建設現場の人手不足や工期遅延・長期化の影響が継続し、鋼材需要は弱含みで推移、通期の出荷量は前期比71千トン減少の**138万トン**
- 円安に加え、中東情勢を背景とした輸出価格の上昇によりスクラップ価格の上昇幅が拡大し、通期のメタルスプレッドは51.3千円と前期対比4.0千円縮小

	2025年3月期					2026年3月期					前回予想	増減	
	上期	3Q	4Q	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期	対前期	対前回予想 (通期)
製品出荷量 (千トン)	725	366	360	726	1,451	690	354	336	690	1,380	1,400	▲ 71 (▲4.9%)	▲ 20 (▲1.4%)
メタルスプレッド (千円/トン)	53.1	58.8	56.5	57.7	55.4	54.1	49.6	47.4	48.5	51.3	51.5	▲ 4.0 (▲7.3%)	▲ 0.2 (▲0.5%)

※1 メタルスプレッド = 製品出荷単価 - スクラップ消費単価

※2 比較欄の上段は増減数量、カッコ内数値は増減比率

## 事業環境と各社の状況

- ベトナム南部：4Qも南部のハウジング向け需要の回復は遅れたものの、政府主導のインフラ投資や民間の大型プロジェクトによる旺盛な需要を捉え、出荷量は前期対比増加  
需要回復による出荷量の増加により、厳しい局面で継続してきたコスト削減策の効果が顕在化し、前期対比増益
- ベトナム北部：北部は政府主導のインフラ投資や民間のプロジェクトに加え、ハウジング向けの需要も非常に強く、在庫がひっ迫している状況

KSVC社は年間を通じて安値ビレットの購入を徹底しスプレッドを確保、他社工場によるOEMを実施し、通期の出荷量・利益ともに過去最高水準で着地  
VIS社は新庄延工場の稼働が順調に進み、出荷量は前期対比71千トン増加、コストも改善され前期対比増収増益

### ベトナム拠点 (南部・北部)

	単位	2025年3月期					2026年3月期					前回予想	前期対比	
		上期	3Q	4Q	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期	増減額	増減率
売上高	億円	505.3	258.0	292.1	550.1	1,055.4	543.7	272.9	367.5	640.4	1,184	1,184.3	+128.7	+12.2%
営業利益		▲3.4	▲7.5	0.1	▲7.4	▲10.8	21.0	9.9	11.5	21.4	42.4	44.2	+53.2	-
製品出荷量	千トン	566	309	345	654	1,221	674	347	452	799	1,472	1,472	+252	+20.6%

※ 海外子会社は12月決算（期間：1月1日～12月31日）

## 事業環境と各社の状況

- 米国：高速道路などのインフラに加え、エネルギー関連施設やデータセンターの建設需要を背景に、テキサス州の鋼材需要は引き続き旺盛、米国関税の影響により市況も上昇  
操業も改善傾向にあることから、下期は黒字化
- カナダ：米国製品に対する報復関税により米国からの鉄筋輸入が抑えられ、市況は上昇  
利益率の高い細物鉄筋を軸に高水準の利益を維持

### 北米拠点

(米国・カナダ)

	単位	2025年3月期					2026年3月期					前回予想	前期対比	
		上期	3Q	4Q	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期	増減額	増減率
売上高	億円	325.0	155.6	164.5	320.0	645.1	315.5	166.7	125.6	292.2	607.7	600.0	▲ 37.4	▲ 5.8%
営業利益		▲ 12.5	▲ 2.5	9.5	7.0	▲ 5.5	6.1	8.4	6.8	15.2	21.3	22.2	+26.8	-
製品出荷量	千トン	230	113	120	233	463	234	117	81	198	432	432	▲ 31	▲ 6.7%

※ 海外子会社は12月決算（期間：1月1日～12月31日）

## 環境リサイクル事業

- 前期対比 同水準
- 大型の個別案件を受注したことにより、4Q単体で営業利益約4億円計上  
医療廃棄物における価格競争やリサイクル意識の変化による廃棄物の減少などの課題は継続

単位	2025年3月期					2026年3月期					前回予想	前期対比	
	上期	3Q	4Q	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期	増減額	増減率
売上高	31.8	15.8	14.8	30.6	62.4	27.5	15.1	16.8	31.9	59.5	70.0	▲ 3.0	▲ 4.8%
営業利益	3.6	1.8	1.3	3.2	6.7	0.7	0.9	3.8	4.7	5.5	4.0	▲ 1.3	▲ 18.9%

## その他の事業

- 前期対比 同水準
- ベトナム鋳物事業の需要が堅調、前期並みの利益を計上

単位	2025年3月期					2026年3月期					前回予想	前期対比	
	上期	3Q	4Q	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期	増減額	増減率
売上高	26.4	10.3	13.2	23.5	49.9	24.3	10.5	11.6	22.1	46.5	50.0	▲ 3.4	▲ 6.9%
営業利益	2.0	1.0	1.4	2.4	4.5	2.9	0.4	0.9	1.4	4.3	4.0	▲ 0.2	▲ 5.1%

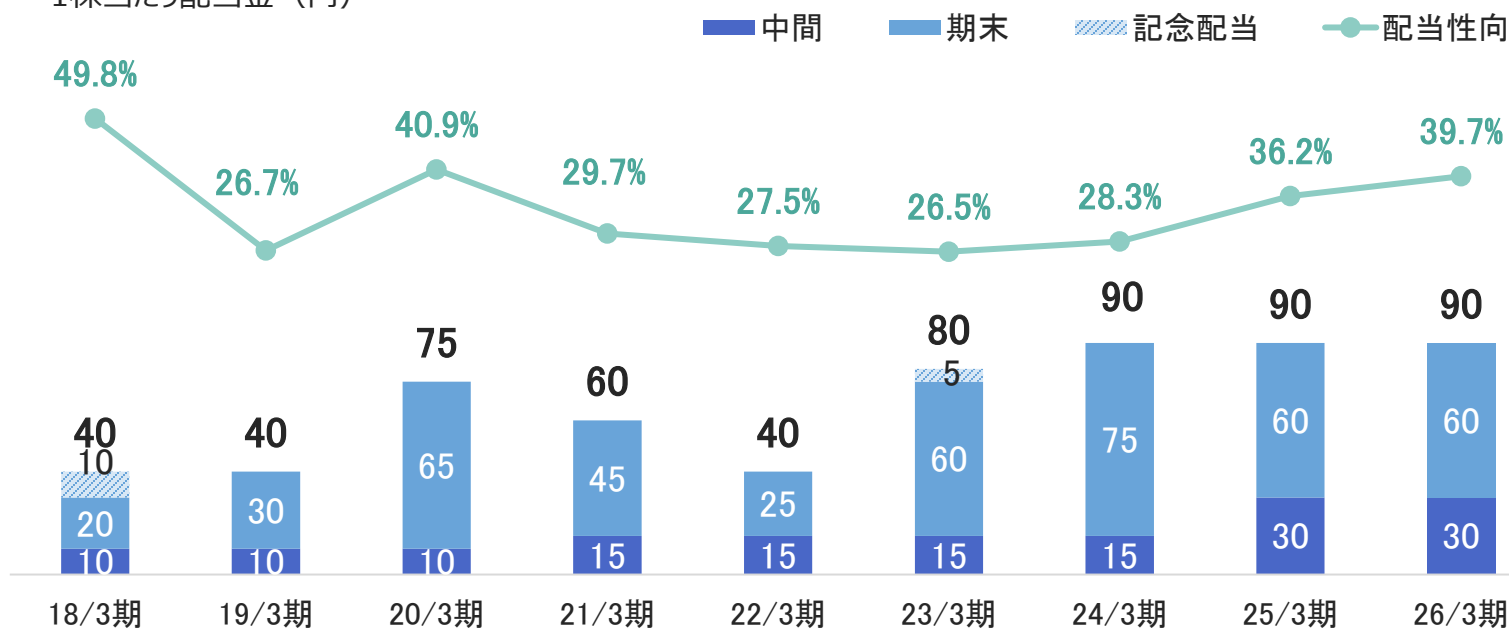
# 2026年3月期 配当について

- ・ 1株当たり配当金は予想から変更なし **1株当たり90円**（中間 30円、期末 60円）
- ・ 配当方針の配当性向30~35%を上回るものの、従来予想通りの配当とする

	単位	2025年3月期			2026年3月期		
		中間	期末	年間	中間	期末	年間
<b>1株当たり配当金</b>	円	30	60	90	30	60	90
<b>配当性向</b>	%	-	-	36.2	-	-	39.7

## 配当・配当性向の推移

1株当たり配当金（円）



1

決算ハイライト

2

2026年3月期 通期決算報告

3

**2027年3月期 通期業績予想**

- 中期経営計画「NeXuS II 2026」の最終年度
- 2026年3月期対比で増収減益を予想

	単位	2026年3月期			2027年3月期			増減率 対前期実績
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	
売上高	億円	1,547	1,604	3,151	1,770	1,830	<b>3,600</b>	+14.2%
営業利益		92	78	170	70	90	<b>160</b>	▲5.7%
経常利益		85	77	162	60	80	<b>140</b>	▲13.6%
当期純利益		54	44	99	39	51	<b>90</b>	▲8.8%

## 2027年3月期 配当予想

- 1株当たり年間70円
- 米国ビントン・スチール社における設備投資計画を含めた資金需要を踏まえ、配当性向30～35%をめどとする配当方針に沿って予想

	単位	中間	期末	年間
<b>1株当たり 配当金</b>	円	30	40	<b>70</b>
<b>配当性向</b>	%	-	-	<b>33.8</b>

# セグメント別通期業績予想

- 国内鉄鋼：鋼材需要が低調な中、スクラップ価格の上昇および中東情勢を背景としたエネルギー費など諸コストの増加が予想され、前期対比**増収減益**
- 海外鉄鋼：ベトナム・カナダでの堅調な利益計上および米国の収益改善を見込み、前期対比**増収増益**

## 売上高

(億円)

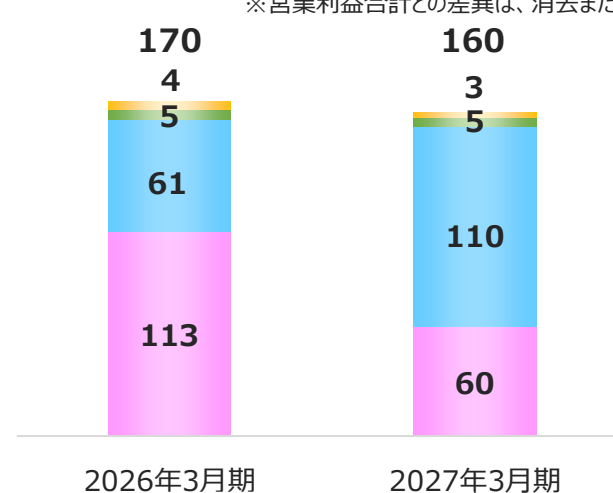
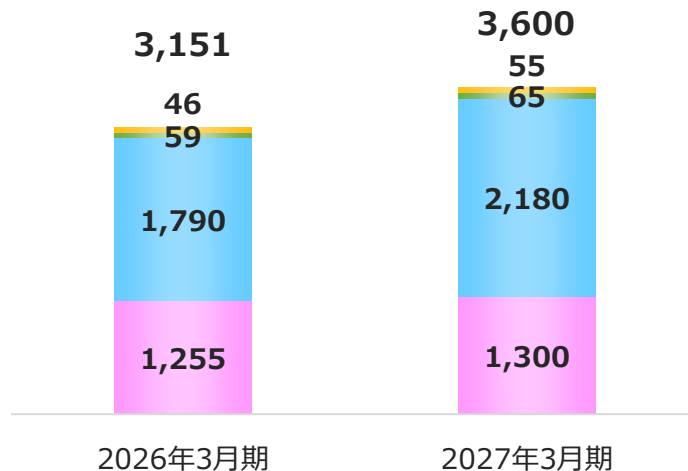
	2026年3月期			2027年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
国内鉄鋼事業	637	618	1,255	625	675	1,300
海外鉄鋼事業	858	932	1,790	1,085	1,095	2,180
環境リサイクル事業	28	32	59	33	32	65
その他事業	24	22	46	27	28	55
合計	1,547	1,604	3,151	1,770	1,830	3,600

## 営業利益

(億円)

	2026年3月期			2027年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
国内鉄鋼事業	69	44	113	10	50	60
海外鉄鋼事業	26	35	61	65	45	110
環境リサイクル事業	1	5	5	2	3	5
その他事業	3	1	4	2	2	3
合計	92	78	170	70	90	160

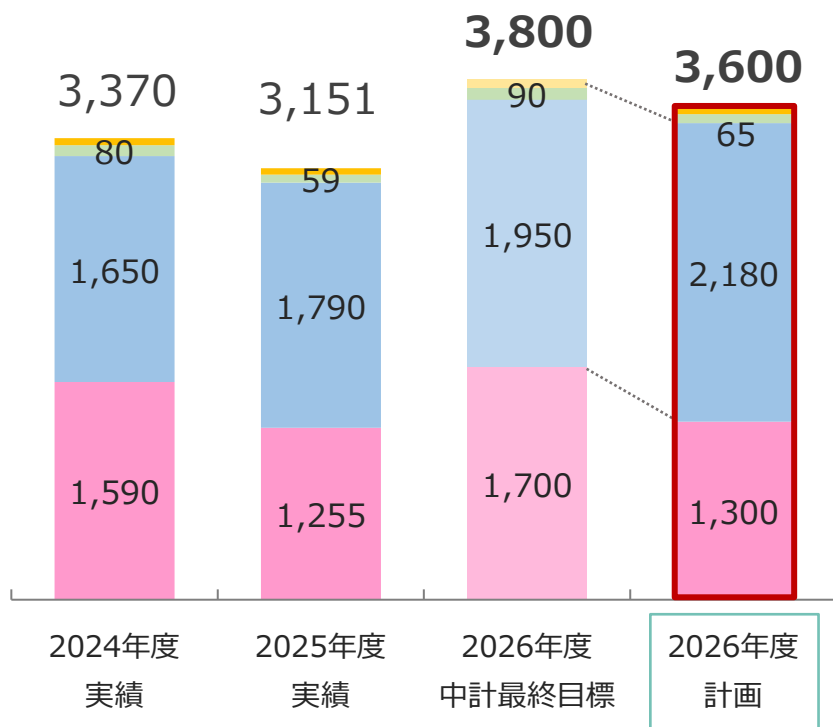
※営業利益合計との差異は、消去または全社費用分



国内鉄鋼事業 海外鉄鋼事業 環境リサイクル事業 その他の事業

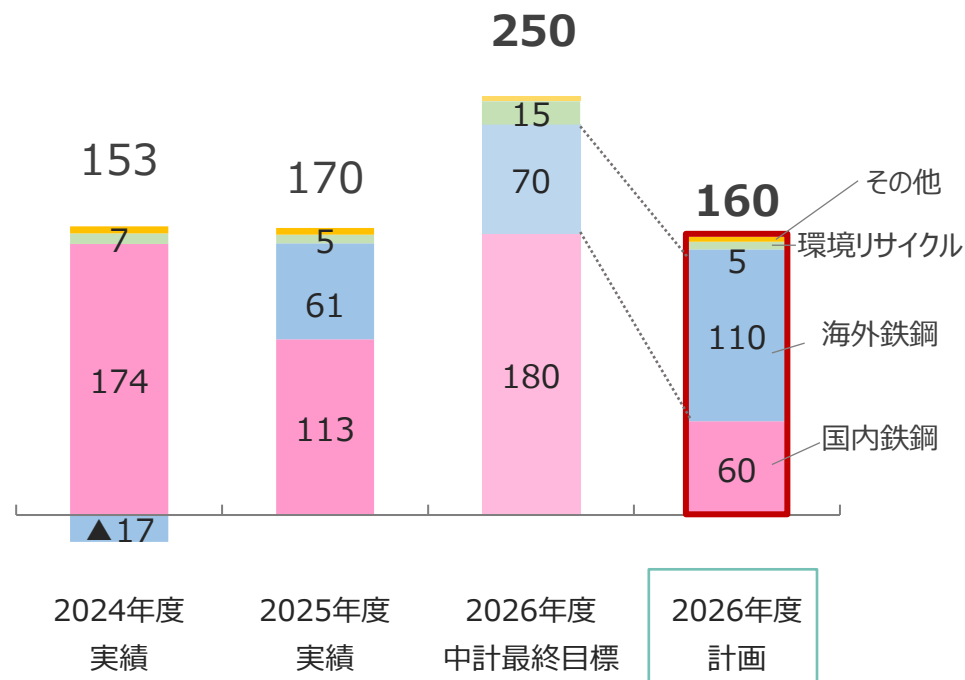
## 売上高

(億円)



## 営業利益

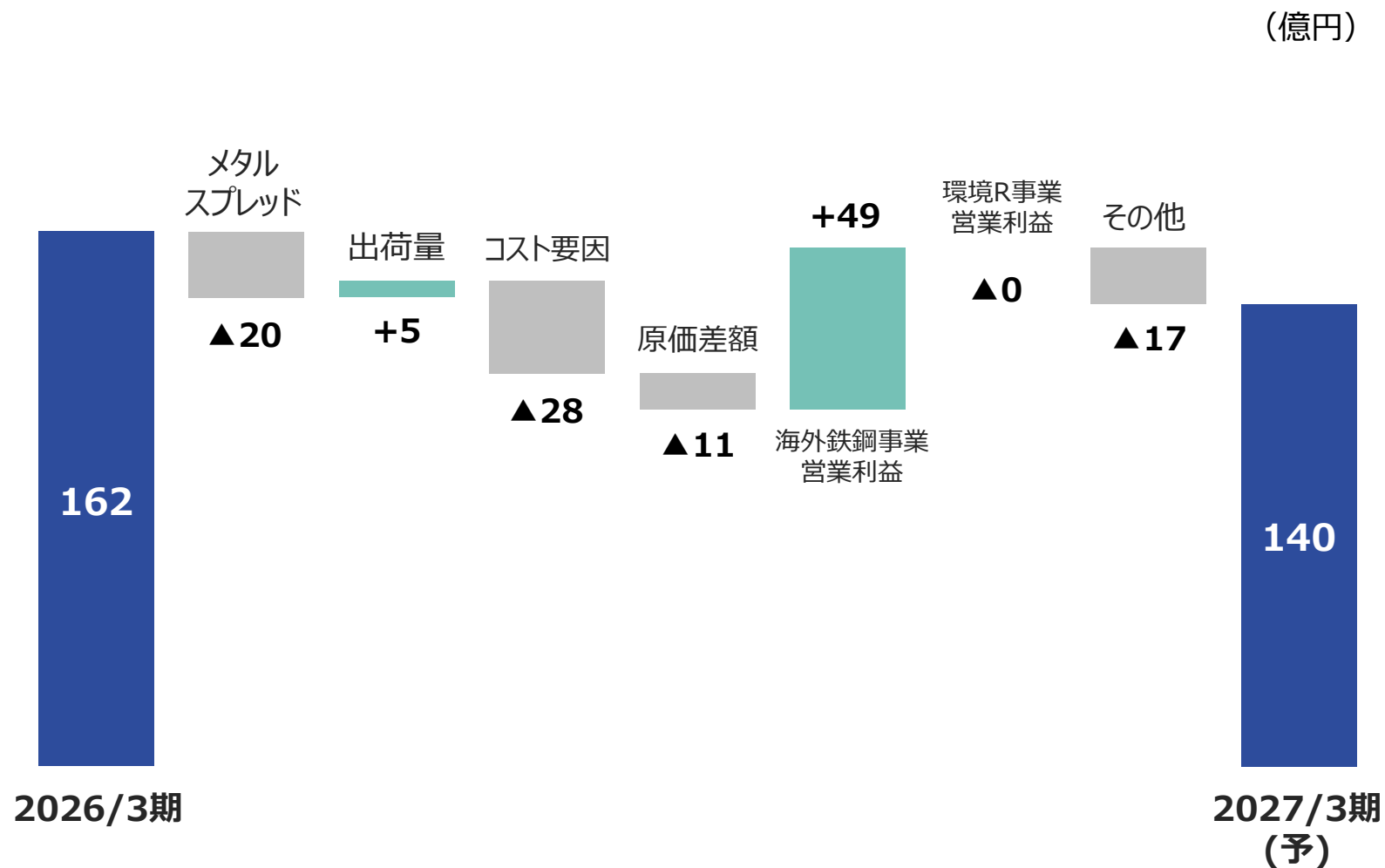
(億円)



※ 営業利益合計との差異は消去または全社費用分

# 経常利益の変動要因：2026年3月期 実績対比

- ・ 2027年3月期の経常利益が 前期対比22億円減少する要因



## 通期の前提数値

前期同様に鋼材需要は低調に推移すると予想され、出荷量は前期と同水準の**140万トン**  
 製品価格の引き上げに加え、スクラップ価格の上昇が落ち着くと見て、下期にかけスプレッド改善の見通し

	2026年3月期			2027年3月期			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	対上期実績	対下期実績	対通期実績
製品出荷量 (千トン)	690	690	1,380	679	721	1,400	▲ 12 (▲1.7%)	+32 (+4.6%)	+20 (+1.4%)
メタルスプレッド (千円/トン)	54.1	48.5	51.3	47.0	52.5	49.8	▲ 7.1 (▲13.1%)	+4.0 (+8.3%)	▲ 1.5 (▲2.9%)

※1 メタルスプレッド = 製品出荷単価 - スクラップ消費単価

※2 比較欄の上段は増減数量、カッコ内数値は増減比率

## 事業環境と各社の状況

- ベトナム南部：南部では、前期に引き続き公共投資や民間のプロジェクトを中心に需要は旺盛  
一方、ハウジングの本格的な需要回復には一定期間を要する見込み  
VKS社は、プロジェクト向けや輸出で出荷量を確保し、前期対比増加  
前期対比増益の見込み
- ベトナム北部：北部では、公共投資や民間のプロジェクト、ハウジングにおいて旺盛な需要が継続  
KSVC社は、引き続き安値ビレットの調達に努めるとともに、VIS社フンエン工場と連携したOEM  
を実施、過去最高を記録した前期を上回る水準の出荷量となる見通し  
VIS社は、新圧延工場の稼働により、出荷量は前期対比増加を見込む  
需要が旺盛なハウジング市場にも参入、VISブランドを効果的に活用しシェア拡大を目指す
- 3拠点とも中東情勢の影響により、下期にかけて電力や諸資材のコスト上昇が懸念される

### ベトナム拠点 (南部・北部)

		2026年3月期			2027年3月期			前期対比	
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	単位	543.7	640.4	1,184.1	761.4	757.2	1,518.6	+334.5	28.2%
営業利益	億円	21.0	21.4	42.4	49.4	24.4	73.8	+31.4	74.0%
製品出荷量	千トン	674	799	1,472	867	907	1,774	+302	20.5%

※ 海外子会社は12月決算

## 事業環境と各社の状況

- 米国：エネルギー関連施設・データセンター・半導体工場などを中心に大型プロジェクトが集中しており、鋼材需要は引き続き高水準で推移  
日本の技術支援の下、現行工場の操業安定化により収益プラスとなる見込み
- カナダ：インフラ等の需要により、今後も堅調の鉄筋需要が見込まれる  
利益率の高い鉄筋の生産を増やし、前期に引き続き高水準の利益を維持する見込み
- 2社とも中東情勢の直接的な影響は限定的

	単位	2026年3月期			2027年3月期			前期対比	
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	億円	315.5	292.2	607.7	324.0	339.6	663.5	+55.8	9.2%
営業利益		6.1	15.2	21.3	16.9	21.7	38.6	+17.3	81.2%
製品出荷量	千トン	234	198	432	207	217	424	▲ 8	▲ 1.9%

## 環境リサイクル事業

- 前期対比 同水準
- 難処理廃棄物の処理量拡大・許認可拡充により、利益水準の維持を目指す
- 企画部門の強化などにより、事業環境の変化に対応できる体制を構築

	単位	2026年3月期			2027年3月期			前期対比	
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	億円	27.5	31.9	59.5	33.0	32.0	65.0	+5.5	9.3%
営業利益		0.7	4.7	5.5	2.0	3.0	5.0	▲ 0.5	▲ 8.4%

## その他の事業

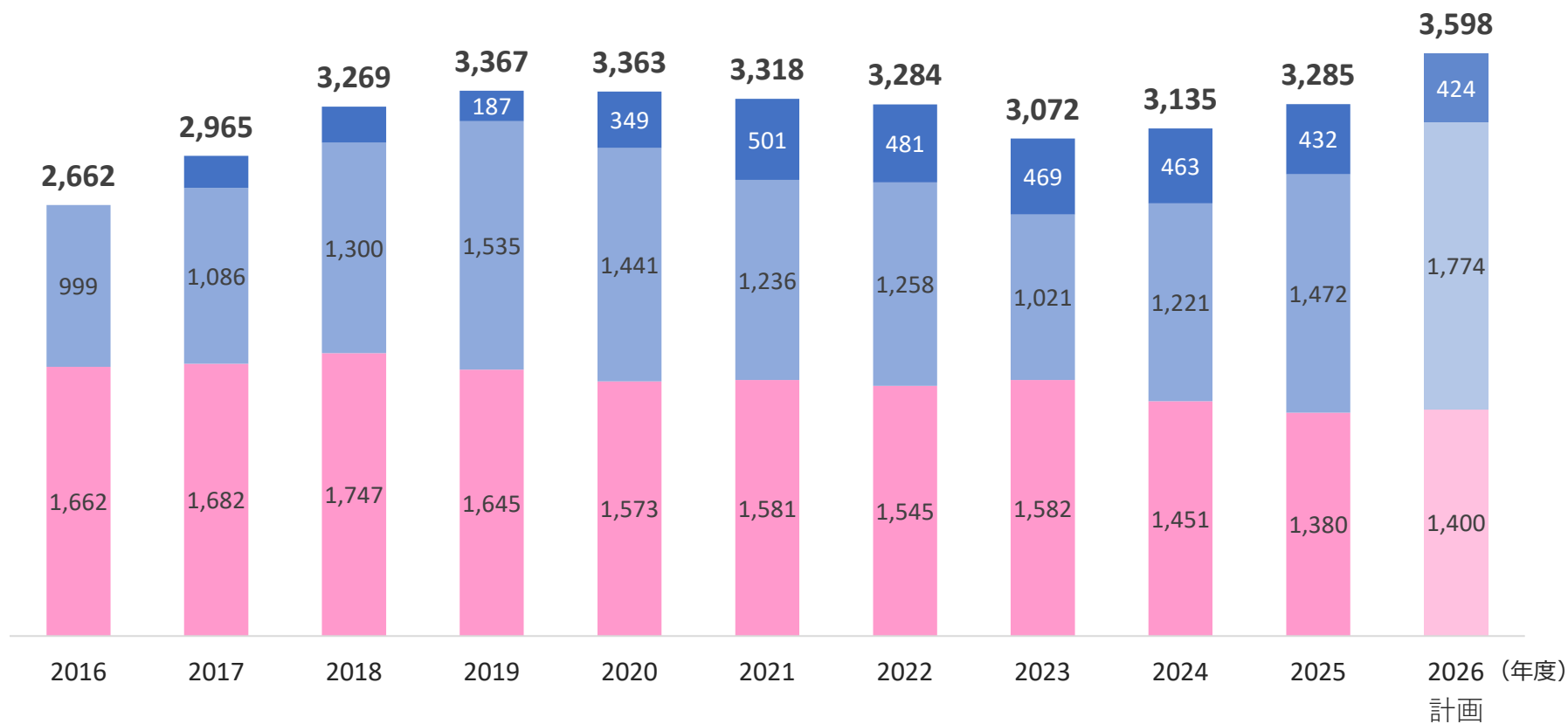
- 前期対比 同水準

	単位	2026年3月期			2027年3月期			前期対比	
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	億円	24.3	22.1	46.5	27.0	28.0	55.0	+8.5	18.4%
営業利益		2.9	1.4	4.3	1.5	1.5	3.0	▲ 1.3	▲ 29.5%

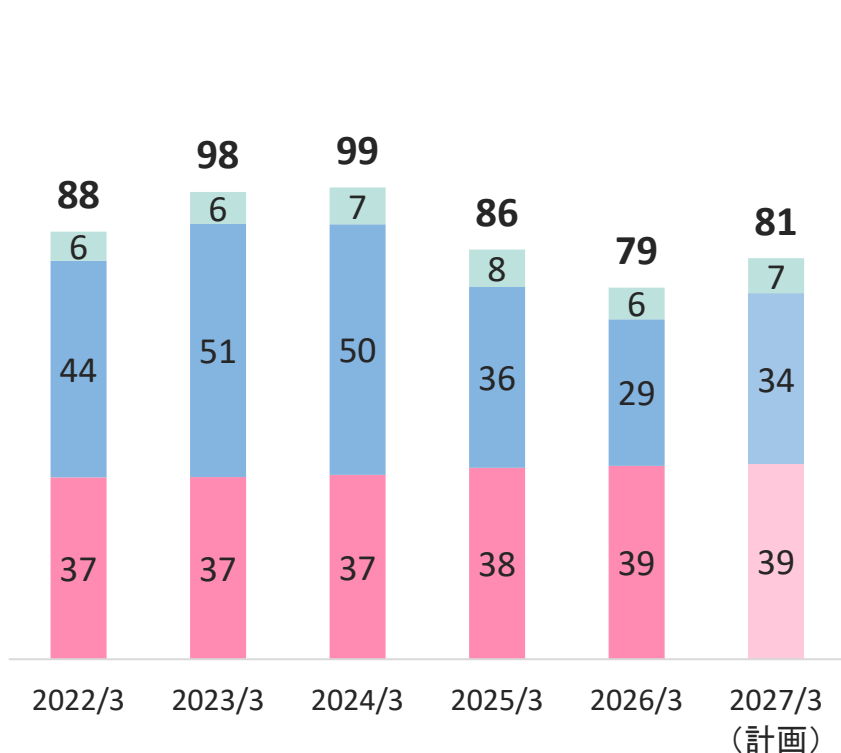
# 製品出荷量推移：国内・海外

(千トン)

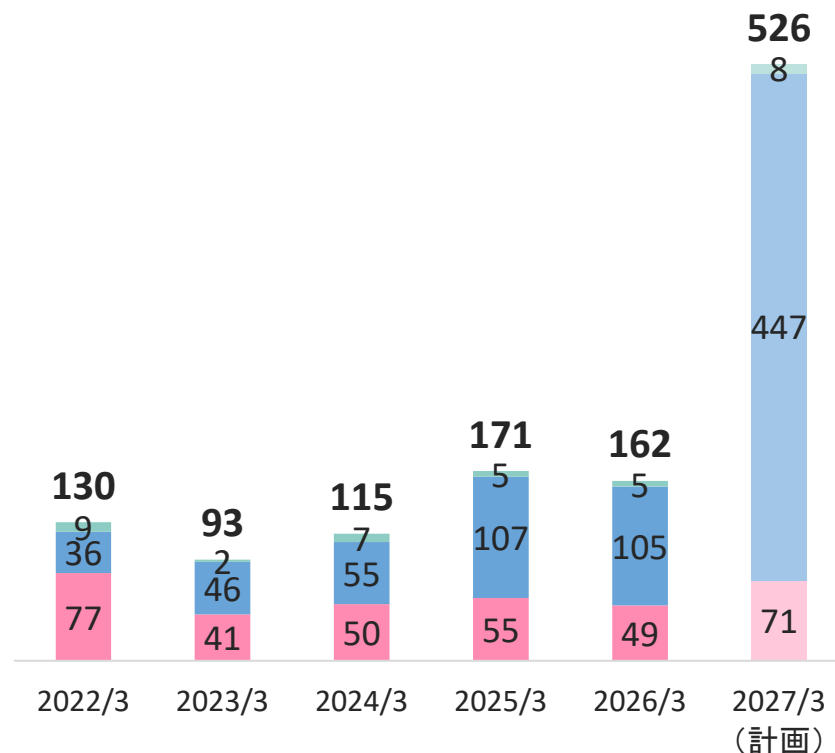
■ 国内 ■ ベトナム ■ 北米



## 減価償却 (億円)



## 設備投資 (億円)



■ 国内鉄鋼 ■ 海外鉄鋼 ■ 環境リサイクル・その他

■ 国内鉄鋼 ■ 海外鉄鋼 ■ 環境リサイクル・その他

※ 合計との差異は調整額

## 免責事項

- 本資料に掲載されている情報には、当社に関する将来予測や業績予想が記述されていますが、これらは潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。業績結果が経営環境の変化などによって、見通しと異なったものになる可能性があることをご承知おきください。
- これらの情報を利用することで生じたいかなる損失や損害に対しても、当社は一切責任を負うものではありません。

 **共英製鋼株式会社**

# 参考：連結貸借対照表

## ■ 資産の部

(単位：億円)	25年 3月期末	26年 3月期末	増減
現金預金	645	<b>629</b>	▲ 15
売上債権	716	<b>661</b>	▲ 56
有価証券	0	<b>60</b>	60
棚卸資産	686	<b>704</b>	18
その他	66	<b>157</b>	91
流動資産合計	2,113	<b>2,211</b>	98
有形固定資産	1,097	<b>1,174</b>	77
無形固定資産	31	<b>28</b>	▲ 2
投資その他	287	<b>318</b>	31
固定資産計	1,415	<b>1,521</b>	105
資産合計	3,528	<b>3,731</b>	203

## ■ 参考：経営指標

	25年 3月期末	26年 3月期末	増減
自己資本比率	57.5%	<b>56.7%</b>	▲0.8pt
ネットDELシオ	0.09倍	<b>0.08倍</b>	▲0.01pt

※現預金に信託銀行保管分（IRB）・譲渡性預金（有価証券）を含む

## ■ 負債・純資産の部

	25年 3月期末	26年 3月期末	増減
負債の部			
仕入債務	269	<b>307</b>	38
短期借入金	555	<b>560</b>	5
その他	209	<b>160</b>	▲ 49
流動負債合計	1,033	<b>1,027</b>	▲ 6
社債	100	<b>100</b>	0
長期借入金	181	<b>287</b>	106
その他	124	<b>130</b>	6
固定負債合計	404	<b>516</b>	112
負債合計	1,437	<b>1,543</b>	106
純資産の部			
自己資本	2,030	<b>2,117</b>	87
非支配株主持分	62	<b>71</b>	10
純資産の部合計	2,092	<b>2,188</b>	97
負債・純資産合計	3,528	<b>3,731</b>	203

# 参考：連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	25年3月期	26年3月期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	394	<b>247</b>	▲ 147
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 99	▲ <b>154</b>	▲ 56
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 182	▲ <b>13</b>	169
現金・現金同等物 の 期末残高	381	<b>464</b>	83

# 参考：当社グループの国内拠点



## 山口事業所

異形棒鋼（全サイズ）、構造用棒鋼、  
小形形鋼（平鋼、Iバー、等辺山形鋼）



## 枚方事業所

異形棒鋼（細物）、丸鋼



## 共英産業(株)

鉄筋加工、鋼材販売ほか



## 共英マテリアル(株)

スクラップ集荷・加工



## (株)吉年 鋳物製造



## (株)共英メソナ

環境リサイクル事業



## 関東事業所

異形棒鋼（細物）



## 名古屋事業所

異形棒鋼（全サイズ）、  
ネジ節鉄筋、高張力鋼

## その他の国内拠点

- ・ 共英リサイクル(株)
- ・ 共英加工販売(株)
- ・ みどり精密工業(株)
- ・ 中山鋼業（持分法適用）



# 参考：当社グループの海外拠点（ベトナム）



## 1 ベトナム・イタリー・スチール社（VIS社）

ベトナム フンエン省

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）

生産能力：製鋼45万トン/年、  
圧延80万トン/年



製鋼工場（ハイフォン）

## 2 キョウエイ・スチール・ベトナム社（KSVC社）

ベトナム ニンビン省

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）

生産能力：圧延30万トン/年



## 3 ビナ・キョウエイ・スチール社（VKS社）

ベトナム ホーチミン市

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、丸鋼、形鋼、線材）

生産能力：製鋼70万トン/年、圧延90万トン/年



## 4 チー・バイ・インターナショナル・ポート社（TVP社）

ベトナム ホーチミン市

事業内容：港湾事業



## 5 ビナ・ジャパン・エンジニアリング社（VJE社）

ベトナム ハイフォン市

事業内容：鋳鉄製品製造・販売

生産能力：9,000トン/年





## 1 アルタ・スチール（AltaSteel）社

カナダ アルバータ州

事業内容：鋼材の製造・販売、  
スクラップメタルの処理・販売

生産能力：製鋼30万トン/年  
圧延27万トン/年

設立年：2020年（創業は1955年）

アルタ・スチール  
（アルバータ州）

1

ビントン・スチール  
（テキサス州）

2



## 2 ビントン・スチール（Vinton）社

米国 テキサス州

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、鉄球）

生産能力：製鋼25万トン/年、  
圧延20万トン/年（棒鋼）  
鍛造 5万トン/年（鉄球）

設立年：1962年